

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社レント中京管理センター倉庫棟	階数	地上2階
建設地	愛知県瀬戸市太子町36-1の一部、36-3、37の一部、45、49	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,600時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年6月20日
敷地面積	21,302 m <sup>2</sup>	作成者	(株)エネ・グリーン 坪田彩乃
建築面積	5,131 m <sup>2</sup>	確認日	2019年6月20日
延床面積	5,414 m <sup>2</sup>	確認者	(株)エネ・グリーン 定森淳一



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 78%
- ③上記+②以外の: 78%
- ④上記+: 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質 Qのスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

音環境	2.2
温熱環境	2.3
光・視環境	2.7
空気質環境	4.1

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8

機能性	2.6
耐用性	2.8
対応性	3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 2.4

生物環境	3.0
まちなみ	2.0
地域性	2.5

**LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4

水資源	3.4
非再生材料の	3.3
汚染物質	4.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	3.8
地域環境	2.9
周辺環境	3.2

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮 3.8

#### ③敷地内の緑化 3.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	55.5 %
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

#### ②資源の有効活用 3.1

#### ④地域材の活用 1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>  
なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>  
なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$





<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	3.0	0.29					3.0
3.1 空間のゆとり			0.3	3.8	0.31					
	1 階高のゆとり		-	3.0	0.60					
	2 空間の形状・自由さ	壁比率 0.08	3.0	5.0	0.40			3.0		
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31					
3.3 設備の更新性			0.3	2.5	0.38					
	1 空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17					
	2 給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17					
	3 電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11					
	4 通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11					
	5 設備機器の更新性		3.0	1.0	0.22					
	6 バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22					
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.39					2.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30					3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		2.0	0.40					2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30					2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	2.0	0.50					
	3.2 敷地内温熱環境の向上		-	3.0	0.50					
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.6
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40					3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI 0.71	3.0	5.0	0.02					5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.27					3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 0.57	3.0	5.0	0.42					5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.28					3.0
	集合住宅以外の評価		1.0	3.0	1.00					
	4.1 モニタリング		3.0	3.0	0.50					
	4.2 運用管理体制		3.0	3.0	0.50					
	集合住宅の評価		-	-	-					
	4.1 モニタリング		-	-	-					
	4.2 運用管理体制		-	-	-					
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30					3.4
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15					3.4
	1.1 節水	自動水栓、省水型便器	3.0	4.0	0.40					
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		0.6	3.0	0.60					
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67					
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33					
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.3	0.63					3.3
	2.1 材料使用量の削減		-	2.0	0.07					
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.25					
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.21					
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	3.0	5.0	0.21					
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	-	-					
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	3.0	3.0	0.25					
	床:ミデュールプライト100、ニチアスシグマフロア、ブレイン50、ルースレイスタイルLL300エコ									
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.0	0.22					4.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	防水工事のプライマー	3.0	4.0	0.32					
	3.2 フロン・ハロンの回避		0.6	4.0	0.68					
	1 消火剤		-	-	-					
	2 発泡剤(断熱材等)	断熱材は全てノンフロン品	-	5.0	0.50					
	3 冷媒		3.0	3.0	0.50					
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30					3.3
1 地球温暖化への配慮		①		3.8	0.33					3.8
2 地域環境への配慮			0.3	2.9	0.33					2.9
	2.1 大気汚染防止		-	3.0	0.25					
	2.2 温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50					
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2	2.7	0.25					
	1 雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25					
	2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25					
	3 交通負荷抑制	独自	-	2.0	0.25					
	4 廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮			0.3	3.2	0.33					3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		0.4	3.0	0.40					
	1 騒音	独自	-	3.0	1.00					
	2 振動	独自	-	-	-					
	3 悪臭		-	-	-					
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		0.4	3.0	0.40					
	1 風害の抑制		-	3.0	0.70					
	2 砂塵の抑制		-	-	-					
	3 日照障害の抑制		-	3.0	0.30					
	3.3 光害の抑制		0.2	4.4	0.20					
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満たしている	-	5.0	0.70					
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30					

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社レント中京管理センター倉庫棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	外構緑化:55.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	建物利用者へ快適な空間を提供できるよう努めている。レイアウト変更、用途変更、設備システムの変化、増強へ支障がない造りとなっている。熱負荷対策やシステムの高効率化によりエネルギーの消費量を低減させるよう取り組まれている。省水型便器、自動水栓を設置し水資源の保護に取り組んでいる。使用材料に配慮し他大気汚染防止に努めている。光害を対策し地域住民へ配慮している。
Q1 室内環境	作業に十分な照度を確保している。室面積の1/15以上の開口部を確保しており空気質の改善が望ましい。建物内を禁煙としており非喫煙者が煙に曝されることのないよう計画されている。
Q2 サービス性能	事務室は60VA/m <sup>2</sup> 確保されておりOAフロアの為レイアウトの変更が可能である。天井高が2.85mあり広く感じる快適な空間を造っている。休憩室が102.33 m <sup>2</sup> 設けられておりリフレッシュの行うことができ快適なオフィス生活に努めている。良好な壁比率により将来の用途変更、設備システムの変化、増強に支障がない。
Q3 室外環境(敷地内)	なし。
LR1 エネルギー	熱負荷制御に対する取り組みがされている。(BPI <sub>m</sub> =0.73)設備システムの効率化により一次エネルギー消費量の低減に努めている。
LR2 資源・マテリアル	省水型便器、自動水栓を設置し水資源の保護に取り組んでいる。グリーン購入法、エコマーク商品を多く用いている。有害物質の含まない材料の使用、ノンフロン品の断熱材を用いる等、大気汚染防止に努めている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が78%となっており地球温暖化への取り組みが成されている。光害対策を十分に行い地域住民へ配慮されている。
その他	なし。